平成26年6月27日

静岡経済研究所 NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所 理事長 鈴木 一雄 静岡市葵区追手町1-13 TEL 054-250-8750

平成 26 年7~12 月期 「静岡県内企業経営者の景気見通し」調査(B.S.I.)

年後半に向け、回復の遅れが懸念 ~労務費と仕入コストの上昇により収益環境に厳しさ~

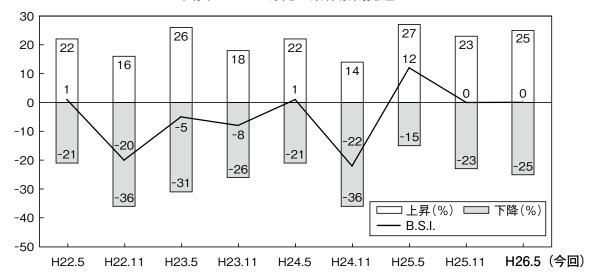
- □ 平成26年5月実施の「静岡県内企業経営者の景気見通し」調査では、平成26年7~12月期の B. S. I. (業界景気見通し指数)は、「上昇」(25%)と「下降」(25%)が同値となり、前回25年11月調査(±0)に引き続き、横ばい見通しとなった。
- □ 企業規模別B. S. I. は、大企業は+13で上昇を見込むが、中小企業は△2と下降見通しとなった。また、業種別では、製造業の+7に対し、非製造業は△9と差が開いた。景気の先行きに対しては規模・業種ごとに格差が生じており、人件費や原材料価格などのコスト上昇による収益の圧迫が懸念されている。

担当:佐藤弘之•近藤泰介

今月の定例調査

第102回 静岡県内企業経営者の景気見通し調査 (平成26年7~12月期B.S.I.)

年後半に向け、回復の遅れが懸念される景況感 ~労務費や仕入コストの上昇により収益環境に厳しさ~



図表1 6カ月先の業界景気見通し

業界景気見通し

□景気見通しは、引き続き「横ばい」 ====

平成26年下期(7~12月)のB.S.I.(「上昇」と「下降」の差を指数化したもの。次頁「調査の要領」注参照)による業界景気見通しは、「上昇」(25%)と「下降」(25%)が均衡(±0ポイント)し、「横ばい」(50%)とする見方が半数を占めた。内需回復への期待感は強いが、円安に伴う原材料価格の高騰や人件費の上昇などにより収益環境が悪化し、企業経営者の景況感は明るい見通しが立ちにくい状況となっている(図表 1)。

企業規模別にみると、大企業では「上昇」(32%)が「下降」(19%)を+13ポイント上回ったものの、中小企業では「上昇」(24%)が「下降」(26%)を \triangle 2ポイント下回っており、大企業と中小企業との間で格差が生じている(次頁図表2)。

一方、平成27年上期($1 \sim 6$ 月)については、「上昇」(20%)が「下降」(15%)を + 5 ポイント上回った。大企業で + 16 ポイント、中小企業で + 3 ポイントと、企業規模により先行きの見方に差がみられるものの、全体としては景気回復に対する期待感がうかがえる(次頁図表 2)。

業種別見通し

□製造業と非製造業で明暗分かれる

業種ごとの見通しを前回調査と比べると(図表3)、製造業は $\pm 0 \rightarrow \pm 7$ と「上昇」した一方、非製造業は $\pm 0 \rightarrow \triangle 9$ と「下降」した。

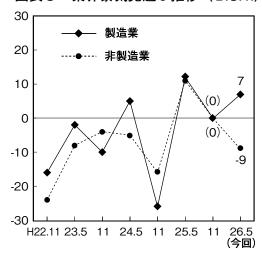
さらに業種別に細かくみると (**7頁付表**)、全17業種のうち、「上昇」が 9 業種、「横ばい」が 2 業種、「下降」が 6 業種となった。「食料品」 (\triangle 17→+29)、「輸送用機械器具」 (\triangle 3 →+7) などは上昇見通しに転じたが、「運輸・倉庫業」 (+33→ \triangle 12)、「建設業」 (±0 → \triangle 5) などでは悪化を見込んでいる。

図表2 業界景気見通し

(単位:%)

								(T):	2 . 707	
項目	口	業 界 景 気								
\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	答	2	6年7	~12	2月	27年1~6月				
	企	上	横	下	В.	上	横	下	В.	
業種別·	業		ば		S _.		ば		S _.	
規模別	数	昇	1/1	降	I.	昇	17	降	I.	
全企業	275	25	50	25	0	20	65	15	5	
大 企 業	37	32	49	19	13	24	68	8	16	
中小企業	238	24	50	26	\triangle 2	19	65	16	3	
製造業	163	29	49	22	7	22	62	16	6	
大 企 業	14	43	50	7	36	14	72	14	0	
中小企業	149	28	49	23	5	23	61	16	7	
非製造業	112	19	53	28	△ 9	17	70	13	4	
大 企 業	23	26	48	26	0	30	66	4	26	
中小企業	89	17	54	29	$\triangle 12$	13	72	15	\triangle 2	
. ,,										

図表3 業界景気見通し推移 (B.S.I.)



- 注1) 本調査における中小企業とは、資本金3億円以下または従業員300人以下の企業(ただし卸売業では同1億円以下または同100人以下、小売業では同5,000万円以下または同50人以下、サービス業では同5,000万円以下または同100人以下)であり、それ以外を大企業とした。
- 注2)「26年7~12月」は平成26年1~6月、「27年1~6月」は平成26年7~12月と比較した見通しである。

調査の要領

- (1)調査目的:この調査は、当研究所が昭和38年より毎年2回実施しているもので、静岡県内企業経営者の自社の業績見通しをもとに、業界景気を調査することを目的にしている。
- (2)調査対象:静岡県内に本社をおく主要企業。
- (3)調査方法:各企業に対するアンケート調査。
- (4) 調査内容:①平成26年上期($1\sim6$ 月)に比べた平成26年下期($7\sim12$ 月)、および平成26年下期に比べた 平成27年上期の自社の業績見通し
 - ②平成26年上期に比べた平成26年下期の売上額、経常利益などの項目別見通し
 - ③現在の企業経営上の問題点および今後重視する経営戦略
- (5) 調査時点:平成26年5月
- (6) 回答状況:調査対象企業465社のうち、有効回答をよせられた企業は275社で、有効回答率は59.1%である。
- (注) **B.S.I.** (Business Survey Index) とは、企業経営者の見通しを数字であらわしたもの。前期に比べて上昇とみる… x、横ばいとみる… y、下降とみる… z について、x+y+z=100 とした時、B.S.I. =2x+y-100=x-z と定義。全員が上昇とみれば B.S.I. は +100、全員が下降とみると B.S.I. は $\triangle 100$ になる。上昇と判断する人が多ければ多いほど +100 に近づき、下降とみる人が多ければ多いほど $\triangle 100$ に近づき、上昇と下降が同数(全員が横ばいとみる場合も含む)の場合、B.S.I. は0となる。

項目別見通し

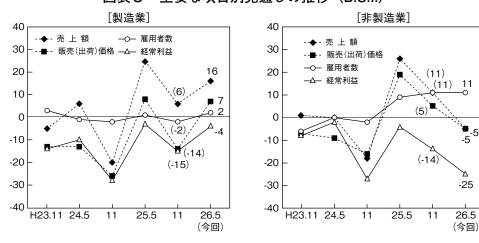
□コスト高への懸念が増し、収益環境は厳しい状況が続く

項目別の見通しでは、製造業においては、「売上額」が「増加」すると予想する割合が「減少」と予想する割合を大きく上回り(+16)、「受注額」(+11)、「販売数量」(+10)についても増加予想が上回った(図表4、5)。一方、「原材料(仕入)価格」が+52、「賃金」も+39と、コスト高騰に対する懸念は増しており、その結果、「経常利益」は \triangle 4と、前回(\triangle 15)からマイナス幅は縮小したものの、総じて増加に転じるまでには至っていない。 非製造業では、「販売数量」(\triangle 13)の減少に加え、「販売(出荷)価格」(\triangle 5)も下がるとの見方から、「売上額」(\triangle 5)も下降する見通しとなった(図表4、5)。また、製造業と同様に、「原材料(仕入)価格」(+41)や「賃金」(+30)といったコスト面の増加を予想しており、「経常利益」は \triangle 25と、依然として厳しい収益環境が続くとみられる。

[製造業] [非製造業] (単位:%) 減少・下降 増加・上昇 減少・下降 増加・上昇 B.S.I 項 B.S.I 目 22 38 16 売 上 $\triangle 5$ 32 27 7 17 販売(出荷)価格 $\triangle 5$ 25 20 10 売 数 量 △13 23 33 販 34 21 21 32 11 注 $\triangle 8$ 28 20 22 △16 29 13 8 産 量 5 57 52 原材料(仕入)価格 41 8 2 41 39 30 5 35 賃 11 7 14 10 $\triangle 4$ 製品(商品)在庫数 $\triangle 4$ 11 | 13 | 2 11 7 18 20 27 13 23 7 設 備 投 資 10 25 12 △13 金融機関借入 $\triangle 4$ 19 | 15 30 $\triangle 4$ $\triangle 25$ 42 17

図表4 平成26年7~12月の項目別見通し

図表5 主要な項目別見通しの推移(B.S.I.)



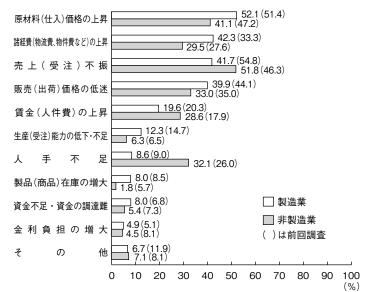
経営上の問題点

□製造業は原材料価格の上昇、非製造業は売上不振に苦慮 =

企業経営上の問題点としては、 製造業では、世界的な資源価格の 高騰に加えて円安基調が続いてい ることから、「原材料(仕入)価 格の上昇」と回答する割合が最も 高かった(図表6)。また、消費 税率引上げが、「諸経費(物流費、 物件費など)の上昇」や「販売(出 荷)価格の低迷」を招いており、 収益確保に苦心する様子がうかが える。

一方、非製造業では、消費税増 税前の駆け込み需要の反動によ

図表6 現在の企業経営上の問題点(複数回答)



り、「売上(受注)不振」を問題点に挙げる企業が半数を超えた。また、「原材料(仕入) 価格の上昇」が4割に達したほか、「人手不足」(26.0%→32.1%)や「賃金(人件費)の 上昇」(17.9%→28.6%)といった雇用面の課題が前回調査比で目立って増加しており、全 体としてコストの上昇を懸念する声が強まっている。

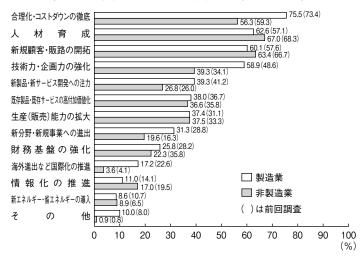
今後重視する経営戦略

□コスト削減や人材育成のほか、競争力強化策に注力 =

今後重視する経営戦略としては、 製造業・非製造業ともに、収益改善に向けた「合理化・コストダウンの徹底」のほか、「人材育成」や 「新規顧客・販路の開拓」といった項目が上位に並んだ(図表7)。

これらに加え、「技術力・企画力の強化」や「既存製品・既存サービスの高付加価値化」、「生産(販売)能力の拡大」などが前回調査に比べて増加しており、自社の競争力を強化する姿勢が強まっている。

図表7 今後重視する経営戦略(複数回答)



以上のように、静岡県内の企業経営者による平成26年下期の景気見通しは、内需回復への期待感は強いものの、業種・規模別で差がみられるほか、資源価格や人件費の高騰といったコストアップ要因が企業収益の足かせとなっており、全体としては足踏み状態が続くとみられる。今後は、コスト削減などの収益改善策とともに、人材や技術力の強化など、自社の有する経営資源を最大限に生かす積極的な舵取りが求められよう。

(佐藤弘之・近藤泰介)

付表 平成26年7~12月の業界景気、自社の見通し(B.S.I.)

項 目 (B.S.I.)	業界	売上	価販売(:	販売	受注	生産	(仕原入)材	賃	在製品(:	雇用	設備	借金融	経常
	景		(出	数	1.1.	Æ	価		庫(商	者	投	機	利
業種	気	額	格荷	量	額	量	格料	金	数些	数	資	入関	益
全 産 業 (275)	0	7	2	2	4	1	48	35	△ 4	6	9	△ 10	△ 13
製 造 業 (163)	7	16	7	10	11	8	52	39	△ 4	2	7	△ 13	△ 4
食料品(17)	29	41	12	41	35	41	47	47	\triangle 6	0	0	△ 17	17
繊維品(5)	△ 40	△ 40	40	△ 60	$\triangle 40$	△ 40	80	80	△ 20	△ 20	25	25	△ 20
木材・木製品(11)	△ 46	△ 55	△ 36	\triangle 46	\triangle 46	\triangle 46	18	45	△ 27	△ 18	△ 27	△ 9	△ 55
パルプ·紙·紙加工品 (21)	5	29	43	5	10	0	57	0	△ 24	\triangle 9	△ 9	△ 15	△ 19
化学・ゴム製品(10)	10	0	0	10	10	10	70	50	20	△ 10	30	△ 11	20
鉄鋼・非鉄金属 (6)	33	33	△ 16	33	16	33	33	33	0	0	16	△ 50	17
金属製品 (16)	19	38	32	25	38	31	56	50	13	25	18	$\triangle 7$	18
一般機械器具(17)	6	12	0	12	11	\triangle 5	53	35	0	18	6	△ 34	18
電気機械器具(11)	9	27	\triangle 9	9	9	9	36	36	△ 27	△ 27	0	0	9
輸送用機械器具(30)	7	16	△ 10	16	10	13	40	63	6	7	20	△ 11	△ 20
その他の製造業 (19)	11	16	11	6	17	11	83	16	0	21	10	0	△ 16
非 製 造 業(112)	△ 9	△ 5	△ 5	△ 13	△ 8	△ 16	41	30	△ 4	11	10	△ 4	△ 25
建設業 (20)	△ 5	△ 25	5	△ 40	\triangle 5	△ 23	83	47	0	15	△ 5	△ 5	△ 50
卸売業 (24)	0	4	△ 8	12	19	6	8	29	△ 9	9	0	△ 13	△ 8
小売業 (30)	△ 21	△ 10	△ 12	△ 27	\triangle 47	△ 56	34	28	9	20	35	11	△ 32
運輸・倉庫業(16)	△ 12	6	13	△ 15	0	△ 10	60	38	△ 20	7	\triangle 6	0	△ 18
サービス業 (13)	0	△ 8	△ 27	△ 20	△ 29	△ 20	22	15	△ 20	8	0	△ 27	△ 31
ホテル・旅館業 (9)	△ 11	11	0	25	17	0	56	11	0	△ 11	38	△ 13	0

[※]業種名の横の() 内の数字はサンプル数